【研究名】: 抗菌薬の Switch 療法の有用性調査

【目的】

ボリコナゾールとリネゾリドなどバイオアベイラビリティが高い抗菌薬の Switch 療法は、点滴静注の投与を経口薬に変更することで、医療費削減、入院期間の短縮や早期退院が可能になるとされています。しかし、Switch 療法はこれまで理論上有用とされていますが、この有用性に関して詳細な検討を行った報告はほとんどありません。本研究では、ボリコナゾールとリネゾリドに対する Switch 療法の有用性について検討を行うこととしました。

【研究意義】

Switch 療法が医療費削減、入院期間の短縮や早期退院を可能にすると期待されます。

【研究内容】

2011 年 1 月～2013 年 12 月にリネゾリド・ボリコナゾールの点滴静注のみの投与、あるいは Switch 療法を行った患者さんを対象に年齢、体重、検査値、薬歴などを調査します。

【研究期間】

2014 年 9 月～2015 年 8 月の 1 年間を予定しています。

【患者さんの個人情報の管理について】

厚生労働省「疫学研究に関する倫理指針」に基づいて患者さんのプライバシーを守るよう努めています。結果の発表や出版に際しては個人が特定できるような情報は掲載しませんので、患者さんの不利益となることはありません。

【研究実施体制】

愛媛大学医学部附属病院　薬剤部

教授	荒木　博陽
講師	田中 亮裕
副部長	田中　守
薬剤師	渡邉　真一

【研究成果】

早期に Switch 療法を推進することは患者の身体的負担や経済性においても有益な手法であると考えられる。